

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 3 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2020

課題番号：16K04766

研究課題名(和文)「生命尊重」の価値に基づいて行動する力を育成する道徳教育プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of moral education programs to foster the ability to act on the value of respect for life

研究代表者

鈴木 由美子 (Suzuki, Yumiko)

広島大学・人間社会科学部研究科(教)・教授

研究者番号：40206545

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、「生命尊重」の価値に基づいて行動する力を育成する道徳教育プログラムを開発することにより、自他の命を大切に子どもを育成し、現代社会における喫緊の課題であるいじめの防止に貢献することであった。まず理論的基盤としてすり鉢式道徳教育論を構築し、そこからいのち観の発達モデルを開発した。さらに、「生命尊重」の価値観が、「命を大切にすること」だけでなく、「気づくフェーズ」「広げるフェーズ」「受け入れるフェーズ」「つなぐフェーズ」の4つの側面から構成されていることを明らかにし、それぞれのフェーズに即した「道徳授業実践ハンドブック いのちを大切にできる道徳学習プログラム」を開発した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は次の点である。第1に生命尊重の価値観を育成する道徳教育プログラムの理論的基盤として、すり鉢式道徳教育論を構築したこと、第2にいのち観の発達モデルを策定したこと、第3にいのち観に4つのフェーズがあることを明らかにしたことである。これらから、生命尊重の価値観を育成するためには、いのちに気づくこと、自分の思いを他者、自然、社会へと広げること、自分とは違う考えや生き方を受け入れること、自分の生き方を考えることを、それぞれ行う必要があることを明らかにし、さらに第4として、4つのフェーズに即した道徳学習プログラム集を開発し、いじめの課題解決のために実効性ある教材開発を行ったことである。

研究成果の概要(英文)： The purpose of this study was to foster children who value their own lives by developing moral education programs that foster the ability to act on the value of respect for life, and to contribute to the prevention of bullying, which is an urgent issue in modern society. First, the mortar type moral education theory was constructed as a theoretical base, and the developmental model of the view of life was developed from there. In addition, it was clarified that the values of "respect for life" consisted not only of "value of life", but also of "phase to notice", "phase to expand", "phase to accept", and "connecting phase", and developed "morality class practice handbook -- moral learning program that values life", according to each phase.

研究分野：道徳教育論

キーワード：道徳教育 生命尊重の価値 いのち観の発達モデル 道徳学習プログラム

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

青少年の規範性の低下は、日本のみならず世界的な課題である。この課題に対し、イギリスでは品性教育 (personal social education)、アメリカでは人格教育 (character education)、オーストラリアでは価値教育 (values education) が行われ、成果をあげている(柴沼晶子・新井浅浩編著『現代英国の宗教教育と人格教育(PSE)』(東信堂, 2001)、武藤孝典編著『人格・価値教育の新しい発展 日本・アメリカ・イギリス』(学文社, 2002)、Terence Lovat, What is values education all about, Rick Weissbourd, Moral teachers, moral students)。日本では、いじめ問題の対策の視点から道徳の時間が教科化された。

研究代表者はこれまでの研究で、オーストラリアの価値教育を参考にしながら、「子どもの対人関係認識の発達に即した道徳的判断力育成プログラムの開発」「価値に基づいて判断し行動する力を育成する道徳教育プログラムの開発」を行ってきた。これらの研究において、小学生、中学生、大人を対象とした価値観に関する調査から、「生命尊重」の価値がどの年齢段階においても上位に選択されていること、また「生命尊重」を価値としてとらえる考え方が日本人独特であることを明らかにした (Suzuki, et.al, Research on Values as Important Components of Peace Education, WCCI, Taipei, 2013, 発表資料参照)。これらから、「生命尊重」の価値は、学校・家庭・地域が共通に価値あるものとする価値であることが明らかになった。

いじめ問題の解決には、学校だけでなく家庭・地域の協力が不可欠である。この点で、「生命尊重」の価値観に基づいて、子供の命を大切にすることを共有できれば、道徳的な観点から「いじめはいけぬ」との共通認識が広まり、実効性のある解決につながると考えた。

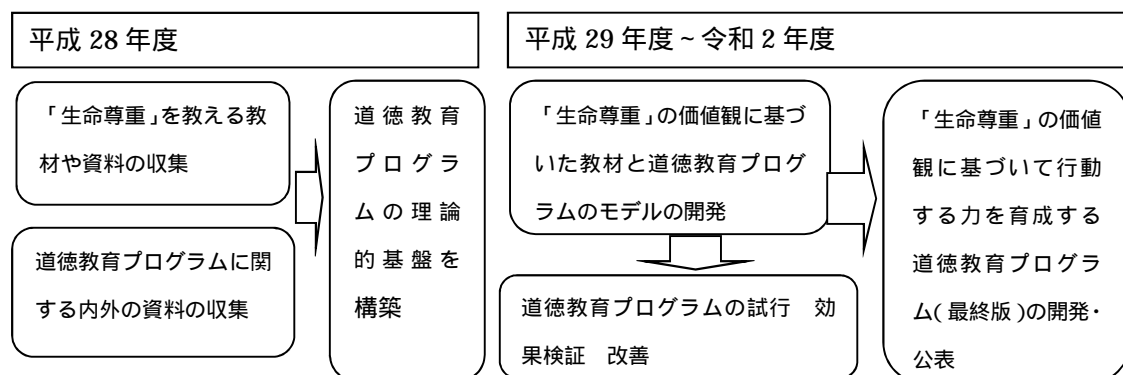
以上から、「生命尊重」の価値の教育は、自他の命を大切にすることを育成し、現代社会における喫緊の課題であるいじめの防止にも役立つと考える。そこで、学校・家庭・地域が共通に価値あるものとする「生命尊重」の価値観に基づいて判断し行動する子どもを育成する、道徳教育プログラムを開発する必要があると考えた。

### 2. 研究の目的

新学習指導要領により、道徳的価値に基づいた行動化の促進が求められている。しかしそのために必要な道徳教育の方法は十分開発されていない。そこで本研究では、まず、学校・家庭・地域社会に共通の価値である「生命尊重」の価値に基づく道徳教育プログラムの理論的基盤を構築する。次に、その理論に基づいて道徳教育プログラムのモデルの開発を行う。次に、プログラムのモデルに基づいて道徳教育プログラムを開発・実施し、効果検証を行う。以上を通して、「生命尊重」の価値観に基づいて行動する力を育成する道徳教育プログラムを開発する。これにより、自他の命を大切にすることを育成し、現代社会における喫緊の課題であるいじめの防止に貢献することが本研究の目的である。

### 3. 研究の方法

平成 28 年度は「生命尊重」の価値観に基づいた教材や道徳教育プログラムに関する資料を収集し、本研究でめざすプログラム開発のための理論的基盤の構築を行った。平成 29 年度は、構築した理論に基づいていのち観の発達モデルの作成を行い、それに基づいた道徳教育プログラムのモデルの開発を行った。平成 30 年度は、生命尊重の価値観を育成する道徳教育プログラムを小中学校において行い、いのち観の発達モデルについて検証を行った。令和元年度は、道徳教育プログラムを小学校において実施し、効果検証を行う予定であったが、COVID-19 の感染拡大防止の観点から小学校が休校となったため、生命尊重の価値観を育む道徳授業実践ハンドブック(小学校)として、「道徳授業実践ハンドブック 道徳学習プログラム集」の開発を行った。令和 2 年度は、令和元年度に開発したハンドブックに中学校の内容を加えた道徳授業実践ハンドブックとして、「道徳授業実践ハンドブック いのちを大切にすることを道徳学習プログラム」を作成した。



#### 4. 研究成果

本研究の成果は、大きく4つある。第1に生命尊重の価値観を育成する道徳教育プログラムの理論的基盤として「すり鉢式道徳教育論」を構築したこと、第2にいのち観の発達モデルを策定したこと、第3にいのち観に4つのフェーズがあることを明らかにしたこと、第4にいのち観の発達モデルに基づき、4つのフェーズに即した道徳学習プログラム集を作成したことである。

##### (1) 「すり鉢式道徳教育論」の提案

すり鉢式道徳教育論は、生命尊重の価値観が、人間との関係、社会との関係、自然との関係において育成されることに着目し、家族愛、友情、信頼など人間との関係において獲得する価値、公正、正義、寛容など社会との関係において獲得する価値、動物愛護、共生など自然との関係において獲得する価値を体験や学習によってすりこぎ棒ですり合わせながら、自分の器の中に道徳性をこね上げることを意図している。生命尊重を根幹として、多様な価値を学びつつ、自分の命を大切にすることから、自分の生き方へと深化する人間の生き方のありようをすり鉢のイメージに重ね合わせ、すり鉢式道徳教育論と呼ぶこととした。

すり鉢式道徳教育論に従えば、教師の役割は子どもが自分の命を大切に、自分の夢や希望を実現することを手助けすることになる。道徳授業においては、人間が生きていく上で必要とされる価値を教わるが、それらを自分の中に取り込んで、価値観を練り合わせて自分なりの人生観を作っていくのは子ども自身である。教師は、子どもが大きくなるにつれて、自分ですりこぎ棒を回せるようにしていくのである。そのためには、子ども一人ひとりが持って生まれたその子らしさや夢や希望を鼓舞し、活気づけ、生きることの喜びを感じさせるようにする必要がある。

このように、子どもを中心に、道徳科や他の教科学習・体験活動で会得する様々な価値観を練り合わせ、かけがえのない人生を生きる喜びに気付かせる道徳教育を、すり鉢式道徳教育論と名付け、理論的基盤とすることにした。子供の思考を中心にする事から、開発するプログラムを道徳学習プログラムとすることにした。

##### (2) いのち観の発達モデルの提案

「いのちを大切にするとはどういうことか」に対する回答を分類し、4段階からなるいのち観の発達モデルを策定した。また、「生命尊重」の価値観を育成する道徳学習プログラムの効果検証を、小学校1年生から中学校3年生までの児童生徒を対象として行った。これらの結果、いのち観は、4段階を直線的に進んで育成されるのではなく、経験や多様な学びから影響を受け、行きつ戻りつしながら深められていき、かけがえのない自分の生き方へとつながっていくことが示唆された。

社会	自分	自然
寛容	人類の一員として、かけがえのない自分の生きる道を見つける。	共生
第4段階 いのち観の確立・展開		
社会のルール	多様な生き方を容認し、自分なりの生き方を社会的秩序との関係で再構成する。	自然の法則
第3段階 いのち観の創出・再構成		
友人や地域社会の人々とのふれあい	自分だけでなく相手や自然も大切にして、将来につながる命に着目する。	動物、植物とのふれあい
第2段階 いのち観の空間的・時間的拡大		
家族や身近な人からの援助、思い	自分の心や体を守る。	食べること、健康
第1段階 いのち観の根幹		

図1 いのち観の発達モデル

##### (3) いのち観の4つのフェーズと道徳学習プログラムの提案

「生命尊重」の価値観が、「命を大切にすること」だけでなく、「気づくフェーズ」「広げるフェーズ」「受け入れるフェーズ」「つなぐフェーズ」の4つの側面から構成されていることを指摘し、いのちを大切に育てる児童生徒を育成するためには、いのちに気づくこと、自分の思いを他者、自然、社会へと広げること、自分とは違う考え方や生き方を受け入れること、自分の生き方を考えることを、それぞれ行う必要があることを明らかにした。ここから、いのちを大切に育てる子どもを育成するためには、学習指導要領で示された内容項目のうち、「D 主として生命や自然、

崇高なものとの関わりに関すること」だけでは不十分であり、「A 主として自分自身に関すること」、「B 主として人との関わりに関すること」、「C 主として集団や社会との関わりに関すること」に関わる内容項目をプログラムとして組み合わせる必要があることを指摘した。さらに、いのちを大切にすの考えの行動化を促すためには、道徳授業での学習だけでは不十分で、道徳授業と教科や体験活動とを生み合わせた教科横断的な学習プログラムとして行う必要性を指摘した。

いのち観のフェーズ	特徴
気づくフェーズ	いのちに気づく：自分や他者、動植物にいのちがあることに気づく。
広げるフェーズ	思いを広げる：他者や自然、社会のことにも考えをめぐらす。
受け入れるフェーズ	違いを受け入れる：自分とは違う考えや生き方に気づき、共感、理解する。
つなぐフェーズ	生き方につなぐ：自分の生き方を考える。

図2 いのち観の4つのフェーズ

(4) いのちを大切にす子どもを育成する道徳学習プログラム集の作成

それぞれのフェーズに対応した道徳授業とそれを含んだ道徳学習プログラム集を開発した。開発した道徳学習プログラム集の構成は、1. いのち観の学習モデルと4つのフェーズ、2. 道徳学習モデルの目的と構成、3. 道徳学習プログラムの例、4. 道徳学習プログラム内の学習指導案の作り方、5. いのちに気づく道徳学習プログラム(気づくフェーズ)、6. 思いを広げる道徳学習プログラム(広げるフェーズ)、7. 違いを受け入れる道徳学習プログラム(受け入れるフェーズ)、8. 生き方につなぐ道徳学習プログラム(つなぐフェーズ)、道徳教科書の学年別内容項目一覧であった。学習指導案はフェーズごとに小学校、中学校各1つを掲載した。作成した道徳学習プログラム集は、今後活用するとともに効果検証を行うこととした。

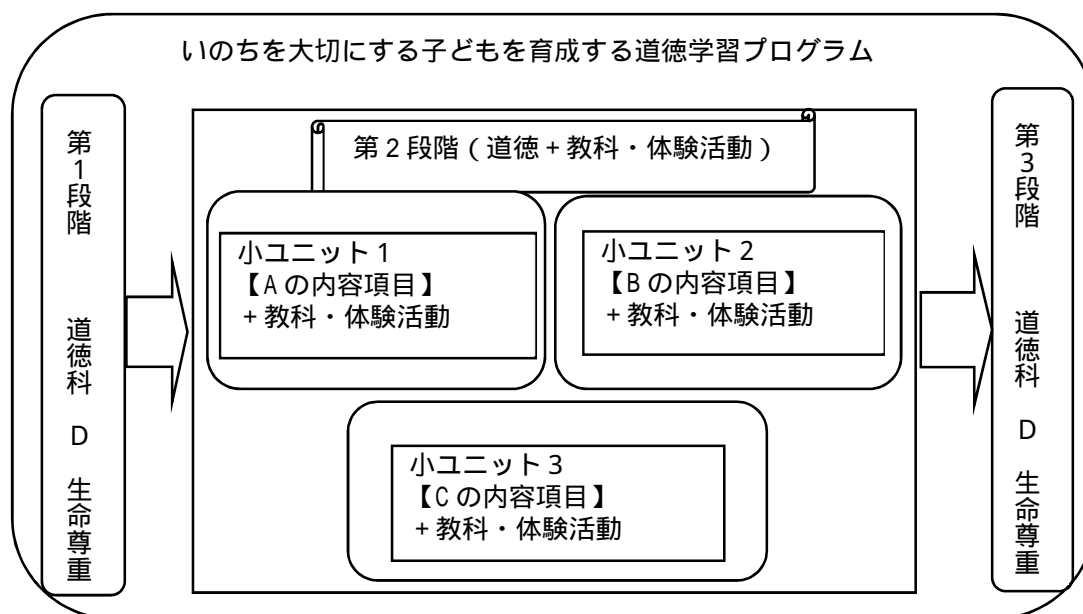


図3 いのちを大切にす道徳学習プログラム(モデル)

以上のように、本研究では「生命尊重」の価値観に4つのフェーズがあることを明らかにし、いのち観の発達モデルに従って、それらのフェーズの内容を含む道徳授業ならびに関連する教科・体験活動を組み合わせた道徳学習プログラムを開発した。この道徳学習プログラムを実践することで、自分のいのちの大切さとともに、自然や他者のいのちの大切さに気づき、自分の価値観を練り合わせながら、自己の生き方を深く考える児童生徒を育成できると考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 鈴木由美子 松田芳明	4. 巻 23
2. 論文標題 生命尊重の価値に迫る道徳授業の創造	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 学校教育実践学研究	6. 最初と最後の頁 155-161
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木由美子 小原智穂	4. 巻 1
2. 論文標題 生命尊重の価値を深める道徳授業の開発	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教職開発研究	6. 最初と最後の頁 11 - 16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yumiko SUZUKI, Tomoe MIYASATO, Atsuko MORIKAWA and Shuo ZHAO	4. 巻 第2号
2. 論文標題 Effect of a Moral Education Program that Cultivates the Concept of Values for Respect for Life- Developing a Questionnaire for Insight on the Developmental Stages during Elementary and Junior High School-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教職開発研究	6. 最初と最後の頁 1 - 8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 鈴木由美子・宮里智恵編著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 溪水社	5. 総ページ数 195
3. 書名 やさしい道徳授業のつくり方 改訂版	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>1. 作成したハンドブック ・鈴木由美子・宮里智恵・山崎茜・広島道徳授業研究会「道徳授業実践ハンドブック 道徳学習プログラム集」2020年3月（JSPS 科研費 JP16K04766 成果物）（全25頁）ニシキプリント ・鈴木由美子（代表）「道徳授業実践ハンドブック いのちを大切にできる道徳学習プログラム」2021年3月（JSPS 科研費 JP16K04766 成果物）（全68頁）ニシキプリント</p> <p>2. 研究成果を学校現場に還元したもの ○広島大学附属小学校学校教育研究会『学校教育』リレー連載「道徳科授業の指導と評価」 宮里智恵「教科化の経緯と改訂の要点（その一）」1232号（2020年4月）p.62-63 宮里智恵「教科化の経緯と改訂の要点（その二）」1233号（2020年5月）p.62-63 鈴木由美子「道徳性の発達的特徴と道徳科の授業」1234号（2020年6月）p.62-63 鈴木由美子「道徳科の教材分析の方法」1235号（2020年7月）p.62-63 宮里智恵「道徳科の授業づくりの手順 - 主題解釈と教材解釈を大切に（その一）」1236号（2020年8月）p.62-63 宮里智恵「道徳科の授業づくりの手順 - 主題解釈と教材解釈を大切に（その二）」1237号（2020年9月）p.62-63 鈴木由美子「道徳科の評価について」1238号（2020年10月）p.62-63 鈴木由美子「9年間を見通した評価の視点」1239号（2020年11月）p.62-63 宮里智恵「道徳科の校内研修 - その方法と意義」1240号（2020年12月）p.62-63 宮里智恵「道徳科の校内研修 - その方法と意義」1241号（2021年1月）p.62-63 鈴木由美子「道徳授業の改善で、教師が変わる、子どもが変わる、学校が変わる」1242号（2021年2月）p.62-63 鈴木由美子「道徳教育は人間教育 愛と希望のある未来へ」1243号（2021年3月）p.62-63</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	宮里 智恵  (Miyasato Tomoe)  (70646116)	広島大学・人間社会科学研究所(教)・教授   (15401)	
研究分担者	山崎 茜  (Yamasaki Akane)  (00792277)	広島大学・人間社会科学研究所(教)・講師   (15401)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	森川 敦子  (Morikawa Atsuko)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	椋木 香子  (Mukugi Kyoko)		
研究協力者	小原 智穂  (Obara Chiho)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関